

【主将の決意】～校長通信 No. 3/38～

4月25日(日)から、“3回目の緊急事態宣言”が発令されました。これにより、4月28日(水)に予定されていた【創立50周年記念事業 第1回東灘高校・神戸甲北高校定期戦】は、6月16日(水)に順延となりました。一時は、開催も危ぶまれましたが、“ほっともっとフィールド神戸”の球場長さんや両校の定期戦担当の先生が「何としても開催させてあげたい」という強い思いが実り、開催する運びとなりました。すでに、お知らせしているように、前哨戦の戦績は、東灘高校の3勝・神戸甲北高校の4勝と、1つ負け越していますが、16日(水)に2連勝すれば、総合優勝が決まります。そこで、野球部主将の3年5組 杉浦 蓮君とバレーボール部主将の3年4組 原田 彩華さんに、大会に臨む意気込みを語ってもらいました。

4月28日(水)の中止が決った時に、「コロナ禍の状況で、開催は無理なのかな・・・」と2人とも思ったようです。特に、バレー部は4月17日(土)の市内大会において、神戸甲北高校と対戦し、敗れただけに「定期戦でのリベンジを誓い練習に励んでいた。」そうです。そのような中、28日に定期戦ができなくなったことを知り、朝早く登校して練習したり、放課後も遅くまで練習してきたことが思い出されて自然に涙がこぼれたそうです。しかし、16日に順延になったことを知り、再び神戸甲北高校戦に向けて、厳しい練習が始まりました。

一方、杉浦君は、「今回の定期戦は、記念すべき第1回大会なので、総合優勝を飾ることができるように精一杯、顔晴りたいと考えています。」と力強く話してくれました。また、「お互いの戦力は、互角だと思っています。ただ、神戸甲北高校のキャッチャーが攻守のキーマンなので警戒しています。」と冷静に戦力を分析しています。

原田さんは、「神戸甲北高校の方が力は上ですが、本校が得意とする、必死でボールを拾う姿勢を見せて、粘り強い展開に持ち込みたいと思います。」と展望を話してくれました。また「これまでの試合を振り返ると、サーブミスなどの細かいミスが目立ったので、そこを練習で詰めていけば、良い試合ができる。」とやるべきことを明確にして、総体・定期戦に備えるそうです。

野球もバレーボールも、流れのスポーツです。そして、「(自分たちが)与えた点」と(相手に)取られた点・“(自分たちが)奪った点”と“(相手から)もらった点”をきちんと分析して練習すれば、勝つチャンスは十分にある。」と両主将に話をしました。さらに「勝負するからには、勝たなければいけない。」とも話しました。それは、“勝ってこそその見える景色”というものがあるからです。一方で、そうは言ってもほとんどの公立高校は、どこかで負けてしまいます。なので、大切なのは“負け方”とも言えます。「公立高校は“如何(いか)に負けるのか”ということは、とても大切なのです。そのために、練習するのです。」また、「これだけ練習して負けたら仕方がない・・・と思えるくらいの練習が必要です。」と準備の大切さも付け加えました。

それから、原田さんには“負けられない理由”があります。バレー部は、3年生が原田さん1人だけです。仲間が、去って行く中で悩みましたが、「負けてたまるか!」と心を奮い立たせて、ここまで顔晴りました。そして、「辞めたくて辞めたわけではない仲間に、1勝を届けたい。」と考えています。さらに、「自分にとっては最後の試合になるので、後輩たちに素晴らしい試合を見て欲しい。そして、応援してくれている人には、『応援して良かった。』と思ってもらえるような試合をしたいです。」と抱負を語ってくれました。

杉浦君は、「春の代表決定戦で滝川第二高校に惜敗した悔しさを、仲間が見てくれる神戸甲北戦でぶつけたいと思います。」そして、「自分たちは、決して部員が多くはありませんが、少ない部員でも“やればできるのだ”と言うところを見て欲しい。」と全校生に向けて抱負を語ってくれました。

両主将とも、「負けられない試合」に向けて、気持ちのこもった練習を行なってくれることと確信しました。6月16日は、熱い試合を期待します。

